

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13342

研究課題名(和文)ウジェーヌ・ミンコフスキーの同調性概念の研究

研究課題名(英文)A Study on Eugene Minkowski's Notion of "Syntonie"

研究代表者

佐藤 愛 (Sato, Ai)

立命館大学・言語教育センター・嘱託講師

研究者番号：00779556

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：ウジェーヌ・ミンコフスキーの精神医学における「同調性」概念の内実について、哲学における「調性」概念から検討した。具体的には、ハイデガー哲学における「気分」概念と、これが練り直されたフランス現象学における「調性」概念とを比較し、アンリとミンコフスキーの「調性」概念における目論見の近さを明らかにした。ここから、「同調性」とはただ環境に合わせるということではなく、楽器の調律のように主体的に環境とすり合わせていくものであるということが分かった。これは、生の触発を伴うものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「同調性」概念に注目し分析することは、ウジェーヌ・ミンコフスキーが研究した「精神分裂病(統合失調症)」について、人文・社会科学の分野から振り返り、人間の病理に関する21世紀的な総合的知見を獲得するために、現代において最も必要な作業である。

本研究を通して、ミンコフスキーが挑んだ「精神分裂病」の治療論について、精神医学史に基づいた確実な知見を提示するとともに、人文・社会科学の分野に、この病についての21世紀的で創造的な議論が切り開かれることが予想される。

研究成果の概要(英文)： We investigated the meaning of Eugene Minkowski's notion "syntonie" from a philosophic viewpoint of tonality: we compared this notion with Heidegger's notion, "tone," and that of French phenomenology, "tonality", which was elaborated out of Heidegger's one. Thus, we clarified that there would be an intersection between the "tonality" in Michel Henry and the "tonality" in Minkowski. In conclusion, we clarified that the tone is not only an adjustment to the environment but a negotiation with it, just like tuning of the instruments. This interaction goes hand in hand with the affection of life.

研究分野：フランス思想

キーワード：ウジェーヌ・ミンコフスキー 同調性 調性 精神病理学 現象学

1. 研究開始当初の背景

ウジェーヌ・ミンコフスキー (Eugène Minkowski 1885-1972) は、精神医学者でありながら、ベルクソン哲学やフッサール現象学をいち早くフランスにおいて精神医学に取り入れたことで知られてきた。彼が 1920 年代後半から 1930 年代前半に発表した主要な三つの著作は、精神病理学と哲学の分野のみに留まらず、空間論を扱う建築学や、時間概念の文化間比較を扱う文化人類学や社会学の分野でも言及され、広大な領域にインパクトを与えた。しかしながら、彼が論じた「分裂性」概念が、20 世紀後半のフランス思想において注目され、盛んに議論された一方で、その元来の対概念であった「同調性」概念は、これまでほとんど注目されることがなかった。申請者はこの点に注目した。

ミンコフスキーが論じた二つの概念のうち、「分裂性」概念は、フランス現代思想の思想家としてフランスだけでなく日本でも名を馳せた、ジャック・ラカンやジル・ドゥルーズの「精神分裂病 (現・統合失調症)」論に影響を与え、これが発展し、様々な領域で大きく論じられた。というのも、二度の大戦を通して「人間性の危機」のムードが世界的に高まったが、このムードが、20 世紀になって命名された「精神分裂病」という病の増加とリンクしていたからである。こうしてフランス現代思想において 20 世紀は、「精神分裂病」と「分裂性」の世紀となった。だがその一方で、ミンコフスキーが精神医学の師であるオイゲン・ブロイラーから受け継いだ、「分裂性」概念と対になる「同調性」概念については、20 世紀の危機的ムードに見合わないものとして、あまり注目されて来なかった。このため研究代表者は、この概念に注目し、その内容を分析することこそが、ウジェーヌ・ミンコフスキーの精神医学を人文・社会科学の分野から振り返るだけでなく、20 世紀のフランス思想を概観し、人間の病理に関する 21 世紀的な総合的知見を獲得するために、現在最も必要な作業であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は広大な領域に影響を与えつつも、不明な点が多く残されていたミンコフスキーの思想の核心を、「同調性」概念のなかに見定め、その背景と展開を精神病理学とフランス思想のなかで追うことを目的とする。これによって、フランス思想において「分裂性」概念の裏面に隠されていた「同調性」概念の可能性を提示し、フランス思想、特にフランス現象学が向かった、人間と環境の共鳴の領域について明らかにする。本研究を通して、ミンコフスキーが挑んだ「精神分裂病」の治療論についての資料的な知見を提示するとともに、この病についての 21 世紀的で創造的な議論が切り開かれることが予想される。

3. 研究の方法

本研究は、ウジェーヌ・ミンコフスキーの「同調性」概念の精神病理学における背景、およびフランス思想、特にフランス現象学におけるその展開に焦点を当てる。そのために、「同調性」概念を提唱したブロイラーと、これに注目して深めたミンコフスキーおよび周辺の精神病理学者によるこの概念についての論述を調査する。また、「同調性」と関連する概念である「調性」概念について、フランス思想における展開を分析する。研究は、精神病理学、フランス思想の二つの分野の資料と文献の検討を中心に行うが、これら二つの分野が参照しているギリシャ哲学の文献や、ハイデガー哲学も参照する。

4. 研究成果

平成 29 年度は、ミンコフスキーの「同調性」概念に関し、彼の師であるブロイラーの精神医学との関連性から調査した。具体的には、チューリッヒ州公文書館とパリ国立図書館に赴き、ミンコフスキーとブロイラーの交流の痕跡に関し、これらの館が所有する資料を収集し、同概念の形成過程について調査した。加えて、当時チューリッヒで、ミンコフスキーの兄が神経医学者として地位を確立していたことを確かめた。これによって、改めて、不安定な情勢下でのチューリッヒからパリへのミンコフスキーの移住の動機が、哲学の分野以外にはなかったことを確認した。これらの調査結果の一部については、年度中に、精神医学史学会および精神病理学研究会「アポリア」において発表を行った。精神医学の分野からの意見を伺い、次年度以降の論文にこれを反映した。

平成 30 年度は、平成 29 年度にチューリッヒとパリで行なった調査結果をもとに、ミシェル・アンリ哲学学会で口頭発表を行なった。この際、前年度における精神医学分野の学会および研究会での発表と質疑応答を踏まえ、研究の細かな方向修正を行った。加えて同年度中に、このミシェル・アンリ哲学学会での発表後の議論を踏まえ、ミンコフスキーの「調性」概念に関する論文を同哲学学会に投稿した。同論文は、学会からの細かな修正リクエストに応答することで査読を通過し、次年度の学会誌掲載に至った。

令和元年度には、同研究の調査結果に関連して、より現代的で幅広い視野を見据え、書籍の一章分に当たる論考を執筆した。研究成果を広く一般に公表する目的で、できるだけ専門用語を使用しないよう留意した。具体的には、「同調性」概念の鍵となる「調性」概念について、これを「雰囲気」や「匂い」という語に置き換え、またこれについて、現代の現象学の展開形の一つであるフェミニスト現象学の視点から、「外見」や「ボディ・イメージ」との関連について論じた。同論考は、次年度に書籍『フェミニスト現象学入門』の第 5 章として刊行された。これによって、

今後のウジェーヌ・ミンコフスキー研究のさらなる課題が明確になるとともに、精神医学と哲学の分野の研究交流の可能性が開かれた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤 愛	4. 巻 9
2. 論文標題 ウジェーヌ・ミンコフスキーのtonalite アンリ、ハイデガーを手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ミシェル・アンリ研究』	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.20678/henrykenkyu.9.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤 愛
2. 発表標題 ウジェーヌ・ミンコフスキーのtonalite アンリ、ハイデガーとの比較から
3. 学会等名 日本ミシェル・アンリ哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤 愛
2. 発表標題 ウジェーヌ・ミンコフスキーのtonalite
3. 学会等名 アボリア
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤 愛
2. 発表標題 ウジェーヌ・ミンコフスキーの同調性概念の射程! 民族精神医学と根本的経験論
3. 学会等名 精神医学史学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 野尻英一編著、高瀬堅吉編著、松本卓也編著、佐藤愛	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 自閉症学 のすすめ	

1. 著者名 稲原美苗編著、川崎唯史編著、中澤瞳編著、宮原優編著、佐藤愛	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 195
3. 書名 フェミニスト現象学入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----